ISSN 0388-5569 VOL. 17 No.3 (通巻51号)

1 9 9 6 . 12

# 山口大学附属図書館報

デカンショと散歩のすすめ	1		
トピックス	3		
研究者と2001年型図書館	4		
本学関係教官寄贈図書			

_		
目	委員の交替	 8
次	日 誌	 8
	お知らせ	 8

# デカンショと散歩のすすめ

中村和行



ヒトは文化をもつ動物 である。

「デカンショ、デカンショ、デカンショ、デカンショ、デカンショ。」ない。あとの半年やよおいは、おうないがある。」は、方のと兵庫県篠山地方のは、おそらく「出稼ぎしょ」

の意がデカンショになまり、これを当時の学生は「デカルト、カント、ショーペンハウエル」の意味で高唱していたということであるが、これら哲学者の思想、つまり西洋近代の哲学論にあけくれていと当時の学生気質を彷彿とさせるのである。そのカントが規則正しい生活を送ったことは有名であるが、とくに散歩は有名で、ケーニヒスベルクの市民たちが彼の散歩姿を見て時計をあわせたという逸話もある。彼は、ただひとり静かに考えながら、ときには、うかぶ想いをメモ帳に書き留めながら散歩した。ただ一度この規則正しい散歩が中断したことがあった。それは、彼がルソーの「エミール」に読みふけって、大事な散歩を忘れてしまったのである。

「わたしは根っからの学者である。わたしは知識にひじょうな渇望をおぼえ、それをさらに深めたいという苛立ちを感じ、進歩するごとに満足にひたるのである。かってわたしは、これだけが人間たるも

のの誇りとなりうるものだと信じていた。そして無 知の民衆を軽蔑していた。しかし、ルソーがわたし の誤りを正してくれた。すなわち、人間を尊敬する というこの考え方こそ、すべての他の人に一つの価 値をあたえることができ、その価値からこそ、人間 らしい諸々の権利は由来するのだ、ということを」 と、カントは述べている。カントは、大学の講義の 中で学生に向かって絶えず繰り返した言葉は、「諸 君はわたしから哲学を学ぶのではなくて、哲学する ことを学ぶでしょう。思想をたんに口まねするため に学ぶのではなく、考えることを学ぶでしょう」で ある。自ら考え、自ら哲学し、自らの脚で立て、と カントは教えた。ヘルダーの追憶によると、カント は権威ぶって自分の主張を振り回したり、教義のご とく教え込もうとすることを極度に嫌った。したがっ て、弟子や学生が師の説を暗記したり、それに盲従 したり、それを模倣することのないよう戒めた。カ ントはみずから考えることを教え、弟子はみずから 思索することを自覚させられた。大学に在籍するも のはもとより、一般に人間にとってなんとしても大 事なことと思える。

カントは貧しい手工業者の息子として生まれた。 大学を卒業するために伯父に助けてもらったり、自 らアルバイトをしたりした、家庭教師をしたのは生 活のためであったし、大学卒業後も当分の間経済的 には恵まれなかった。彼は、金銭にかんしてもその 他のことにおいても負債をしないこと、人の厄介に カントは、真の哲学の問題として、三つをあげている。

その第一は、「わたしは何を知りうるか」である。 この問いに答えるのが『純粋理性批判』の課題であっ た。デカルトは、「われは考える、ゆえにわれはあ る」とし、考えるわれを根本にした、カントは、こ れを徹底した。当時、ヒュームが、いっさいの知識 は経験にもとづくことを主張し、経験的な自然科学 の基礎である因果律も、結局は連想の繰り返しによ る主観的な信念であり、なんら客観的、一般的な法 則でないとした。カントは自然科学の学としての正 しさを、ヒュームのごとく疑うことは出来ず、数学 や物理学の法則は絶対の真理であると考えた。その 自然科学での知識の正当性、真理性について検討し た。いやしくも真理である以上は、いつ、どこの、 だれにとっても通用し(普遍性)、そして必ず通用 しなくてはならない(必然性)。そのような性格を もつ自然科学的な真理(認識)は、いかにして可能 であろうか。われわれが外のものを正しく模写する ところに成り立つのではなく、われわれが自らの先 天的(ア=プリオリ)な形式によって、自発的に作 り上げたものについての判断なのである。自らの能 力による自発的な構成であるかぎり、その構成は、 主観的であるが、いやしくも経験や対象の存在する 限り、いつでもその形式的な総合が作用していなく

てはならないとすれば、それは同時に客観的でもあ る。すなわち、外的な対象があって、それにわれの 知が従うのではなく、考えるわれが対象や経験的世 界を可能にするのである。まさしく、コペルニクス 的転回である。しかし、人間は神ではない。神なら ば思考することによって、直ちに対象を、天地万物 を、創造するであろう。しかし、人間は思考するこ とによって、経験から与えられる素材をくみたてま とめあげて、経験的世界や自然的対象を作り上げる ことは出来るけれども、素材そのものを創造するこ とは、人間には許されていない。はたして素材をだ れが与えるのか、その素材がどこからくるのか、そ の素材の源泉そのものの姿ないし本質はなんである か、は人間にはわからない。それを想像することは できても、それを把握し、それを存在する対象とし て考えることはできない。そこに、人間の知の限界 がある。

その第二は、「わたしは何をなすべきか」である。 この問いに答えるのが『実践理性批判』の課題であっ た。私たちの日々を考えてみると、フロイトのいう ごとく、欲求に駆り立てられ、その不満をみたそう として、駆け巡っているようである。動物的な本能 や衝動にもとづくような欲求のほかにも、にんげん てきな地位、名誉、富、長寿など、そうじてこの世 の幸福を追い求めて止むことがない。だが、こうし たい、ああしたいともがくとき、他方ではこうして はならぬ、ああしてはならぬ、こうすべきだ、ああ すべきだという声にぶつかるであろう。他人が見て いようとなかろうと、他人が知っていようと知らな かろうと、わたしたちの内に起こってくる声はどこ からくるのであろううか。カントは、このような内 なる声を「義務」ないし「道徳律」とよんだ。義務 の義務たる本質は、あれこれの目指されたものとい う内容ないし実質にあるのではなく、それは普遍的 な形式より他に無いと考えたのである。すなわち最 高の道徳律は、「汝は、汝のやろうとしていること を、いま、だれが行ってもふさわしいことであるか どうか、汝のやろうとしていることが普遍的に妥当 するかどうかを考え、そのような基準にかなうよう 行為せよ」となる。これが、じつはごく普通の人が、 道徳的な善悪を判断したり、何をなすべきかを決め たりする場合、いつも眼前において使用していた正 しい尺度の内容なのである。また、大事なことは、 われわれが道徳律ないし義務の意識に迫られるとき、 われわれは、そこに、欲望から開放されて、人間の 本質である理性によって生きようとする自己を見る ことである。欲望にとらわれないで、人間たる本質 に生きようとしている自由な自己を知ることなので ある。

その第三は、「わたしは何を望んでよろしいか」 である。この問いに答えるのが『たんなる理性の限 界内の宗教』の課題であった。カントは、次のよう に述べている。人間が理性者である以上、道徳律を 自らの意志の最高原理とするにちがいない。すなわ ち、道徳的に善をなすであろう。しかし人間はまた、 感性的な自然的本質(本能、欲望)をもっている。 これは、それじしんけっして悪ではなく、むしろ望 ましいものであり、よきものであり、道徳を助ける こともできる。それゆえ、この自然的素質を絶滅し ようとするのは、ただ無益であるのみならず、有害 でもあるといえる。ただ人間は、最高の道徳律のよ びかけにもかかわらず、この本能ないし欲望の目指 すもの(自己愛、この世の幸福)を最高の原理にし ようとするのである。最高の原理であるべき道徳律 を意識しながらも、自らの意志の弱さのために、或 いは不純のために、或いは意図的に、秩序を顛倒す るのである。すなわち、自愛や幸福追求を自らの原 理とし、道徳にそむくのである。あるいは外形のみ 道徳を真似て、道徳を、自愛や幸福追求のための道 具にしてしまうのである。そこに悪がある。人間は、 あえてこの秩序の顛倒をなそうとする根本悪の性癖 を有するのである。そこで、道徳的に善なる人間に なるためには、この根本悪による秩序の顛倒をさら に顛倒すること、いわば考え方の革新がなされなく てはならない。そのために、自らの力の限りを尽く さねばならない。そこではじめて、自らの能力のな かに無いものが、より高い存在(神)によって補足 せられるであろうことを望むことができ、信じるこ とができるのである。問題は、神の恩寵にあずかる ためには何をすべきか、ではない。神の助けをうけ るに値するようになるには何をすべきか、である。 ひたすら純なる徳に生きるとき、人は、徳にふさわ しい福が神によって恵まれるであろうことを、望む ことがゆるされるのである。

最後に、カントは「人間とは何であるか」の問い に対して『実用的見地における人間学』の中で次の ように答えている。「人間は、ひとびとと一つの社 会をなし、その社会において、芸術及び学問を通し て自己を陶冶し、市民化し、かつ道徳化する、みず からの理性によって定められている。幸福と呼ばれ るところの安逸と歓楽の誘惑へ受動的に身をまかそ うとする動物的傾向がいかに強くとも、むしろ能動 的に、人間の自然の粗野のためにつきまとっている 妨害とたたかいつつ、みずからを、人間性にふさわ しいものとなすよう、その理性によってさだめられ ている」。人間は社会の中にあって、共存している にもかかわらず、個人的、利己的であろうとする。 人間は人間として完成してこの世にあるのではなく、 未完成なものとしてある。したがって、学問や芸術 を通して自己をただ自身によって、自由に形成(陶 冶、市民化、道徳化)しなくてはならない。自然性 を陶冶して有能になり、社会性を身につけて処世の 上でりこうとならなくてはならない。さらに、道徳 的素質をかためて。善き人とならなくてはならない。 カントによれば、文化とは、人間性を陶冶すること である。人間をきたえて、有能にすることである。 そしてそれが自然の最終目的である。しかし、その 究極の目的は道徳であり、文化そのものは、道徳の ためにこそ、意義を持つのである。カントは、『実 践理性批判』の最後の章で述べている、「それを思 うことが、度重なれば重なるほど、長ければ長いほ ど、ますます新たな、ますます強い感歎と崇敬の念 とをもって、わが心をみたすものがふたつある。それ は、わが上なる星空と、わが内なる道徳律である」と。

山口大学附属図書館は、山口大学における教育、 学術研究を支える基盤であり、いま、電子化情報に 対応した図書館の構築に向けてその機能を強化、高 度化することを目指しています。一方で、学生や教 職員等の図書館を利用する者が、大学において、学 問や芸術を通して、自己を自身によって、自由に形 成する場として機能できることを望んでいます。な お、本文は、『カント』人と思想:小牧治著,清水 書院(昭和47年発行)を引用させて頂きました。

(附属図書館医学部分館長・1996年11月1日記す)

#### トピッ クス

#### ☆ メディカルビデオシアター開設

医学部分館では、11月から、試行的に館内所蔵の医学関連ビデオの放映をプロジェクターで行っています。 勉学の合間の気分転換にご鑑賞下さい。また資料の有効利用とビデオの劣化を防ぐという意味もあります。 毎週水曜日、17時10分~18時。於視聴覚室。鑑賞のための入退室は自由です。

# 「研究者と2001年型の図書館」

# 渡 部 哲 夫

#### 1. 研究者にお尋ねいたします

インターネットの出現による情報流通の変化に、 大多数の方々が驚嘆されていることでしょう。それ は、図書館員の私が、大学図書館の今後に戸惑いを 感じるように、研究者も研究活動を如何に対応させ るべきか、迷われるところではないでしょうか。そ の中で「2001年型の図書館」は、学術情報の『利用 者』と『供給者』の二役を兼ねる研究者が、中心に 建設すべきではないかと感じ始めています。

第一の理由は、インターネットの出現で、論文発 表の機会が容易になった点があげられます。従来の 発表機会には、学会による査読と出版経費に伴う掲 載枠の2つのハードルが存在していました。それに は、研究成果の評価と、研究者を育てる効果が認め られます。しかし、新しい電子出版や電子通信出版 は、研究者に、2つのハードルに束縛されない、 「情報発信の自由」と、「自らで育つ」に任せられる 現象を生み出しました。

これまで研究成果を公にする役割は、「学会」と 「学会誌」が果たしてきました。しかし、情報流通 を容易にするインターネットの出現で、是非とは無 関係に、研究者の激しい集合離散を引き起こし、小 規模で短命な研究会やグループを多く生み出すこと でしょう。そして、従来の学会と学会誌は、総説誌 的な役割を担い、実際の議論は速報性の強いニュー

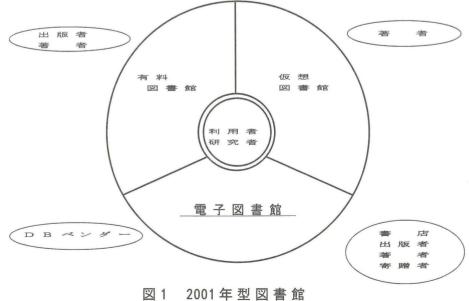
スレターとして、ネットワー ク上を流通することになり ます。

第二の理由は、先に述べ たような学会形成の変化に 伴い、今の大学図書館やそ のネットワーク共同体では、 資料を完全型として、収集 保存し未来への提供を行う 機能を果たせないことです。 何故なら、電子出版の手軽 さと、学会形成の小規模多 数型への変化が、個々の図 書館の継続的な収集保存の 機能を困難にしてしまうか らです。

第三に情報の電子化が、学術情報の性質を【固定 化情報】と【動態化情報】の2種類に分化させたこ とです。これは、記録媒体によって見分けることが できます。印刷物やCD-ROM等で読者に届けられる 情報は、【固定化情報】であり、著作権者のサーバ 機からネットワークで配信される情報は、【動態化 情報』といえます。これは著作権者から見ると、 「更新不可能な情報=固定化」と「更新可能な情報= 動態化」という重要な意味を持っています。従来の 図書館では、この新型の時系列的に変化する動態化 情報を収集保存し、提供するシステムに組織を変革 できないと考えます。この動態化情報については、 研究者の引用行為にも重大な影響が考えられます。 なぜなら、何時の時点の参考文献であったか、また、 図書館の書庫に眠る資料のように、永久に著作権者 が管理するサーバー機に保存され続けるか否か。こ れらの点が、引用する側の研究者にとって重大な関 心事になるからです。

### 2. 3種類の図書館に囲まれる研究者【図1】

図書館員が、電子図書館を建設しようとする時、 最初に「著作権」の壁に出会います。書籍出版では、 図書館に寛容だった著作権者も、図書館の無償行為 に対し、同時アクセスやダウンロードなどの機能と 併せて強い脅威を感じています。



私は、著作権と動態化情報の2つの大きな壁を越えるためには、これから述べる3種類の図書館を、「利用者」と「著作権者」をかねる研究者が主体になって建設すべきではないかと考えます。

#### 2-1 仮想図書館【図2】

これは、ネットワーク上に存在する動態化情報を、 収集・保存・提供していくために必要な図書館です。 小規模の研究会やグループで発表される学術論文は、 経費のかかる印刷物にならず、サーバ機にて管理され、電子通信出版の形態をとることになるでしょう。 この学術論文の記録媒体としてのオリジナル性は研究会の存続に強く影響を受けます。また、著作権者の手元で管理されることは、更新可能な情報として常に訂正削除や加筆を行うことも可能になりではなるに記するに対しまった結果と言えます。電子通信の手から離れてしまった結果と言えます。電子通信 出版では、著作権者にとっては正の問題点として更新可能な機能を行使して営むことが出来ます。一方、引用する側の研究者にとっては、負の問題点ではないでしょうか。なぜなら、研究者の発表論文の正当性を補完するために、読者に示す引用文献の存在が不定なものになるからです。さらに、読者にとっては、引用文献の入手によって、学術論文の信憑性を確認することを困難なものにしてしまいます。この欠点を補うためには、ネットワーク上の学術情報を専門に扱う「仮想図書館」が必要になります。

この特徴は、研究者が論文を発表する際、引用文献を全文コピー(またはリンク付け)し、自らの論文に添付したうえで、第三者の仮想図書館に電子情報として保存させようとするものです。重要なことは、発行単位の巻号から分離し、仮想図書館に保存すべきか否かについて審査されます。そして、収納された論文を研究者は、認知された学術情報として利用することができます。

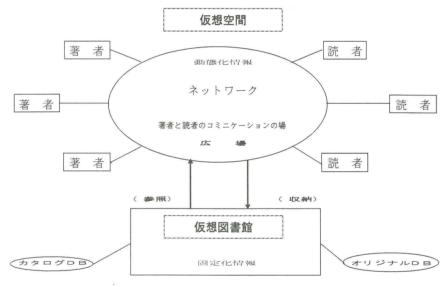


図2 仮想図書館

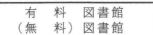
#### 2-2 有料図書館【図3】

電子通信出版では、流通経費を省くことで安価に 読者に配信することが可能になります。しかし、書 店や出版代理店などの流通業者にとっては死活問題 になります。出版者にとっては、図書館の存在が販 売の障害になります。

そこで、書店の書籍販売と図書館の参考業務サービスが結びついた有料図書館の出現が考えられます。 学会組織にとっても、ある程度の運営資金を確保するため、最新の学術情報の電子通信出版を、有料図書館に委ねるでしょう。一方、世界的に学術出版を 手がけてきた出版社は、爆発的に増加する学術情報に対して、品質の高い二次情報DBを作成するとともに、図書館に似た読者支援サービスを強化することで、収益を確保して行きます。

別の形態として、民間放送のように、スポンサーを募った形態や、企業体が収益の社会還元として運営する形態の無料図書館なども考えられます。

何れも、最新の学術情報に重点をおいて運営され、 これには、長期保存や遡及への取り組みは、期待出 来ません。



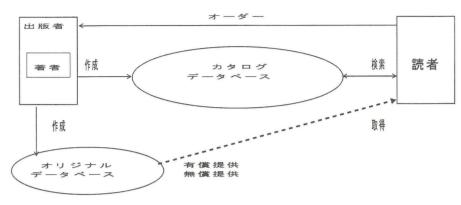


図 3 有料図書館

#### 2-3 電子的図書館【図4】

これは、大学図書館とそのネットワーク共同体を 指します。その重点として確立された学術情報 を 中心に収集・保存・未来への提供を行うことになり ます。この確立された学術情報と、仮想図書館の扱 う認知された学術情報の違いは、前者は単行図書を 指し、後者は学術雑誌のもつ性格の違いを当てはめ ると説明出来ます。

今後の大学図書館は、従来の機能の延長として電 子的図書館化を進めることになります。そして、利 用者に対して、3種類の図書館の利用補助を行うこ と。また、マルチメディア等の新技術の応用を通じ

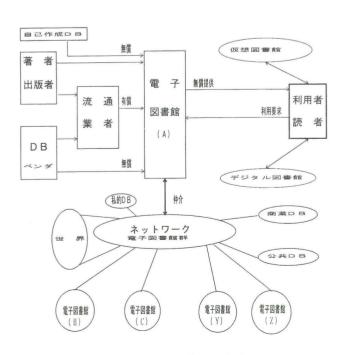


図4 電子的図書館

て、研究者と学術情報を結びつけるインターフェー スビルダーとしての使命を担うことになります。

#### 3. 2001年型図書館の建設プロセス

先に、従来の学会と学術雑誌の査読について、イ ンターネットや電子通信出版の出現を理由に、将来 において過小定義して述べました。しかし、仮想図 書館の形成と運営では、従来の学会の果たす役割は 重要になると考えます。仮想図書館が行う、収集・ 保存・提供の行為には網羅性より、信憑性と今後の 学術発展の糧に成りうる学術情報を選定しなければ ならないからです。従って、幾つかの学会が共同し て「仮想図書館」の建設に当たるべきではないでしょ うか。

有料図書館については、民間放送型の無料図書館 を含めて、著作権者と読者のために、出版社や書店 の経済活動の面から議論を起こす必要を感じます。

従来の図書館は、3種類の図書館がバランスよく、 研究者の前に整備されるまで、過去の学術情報の電 子化を含めて、大きな青務を担うことになります。

別の角度の課題として、電子情報の保存がありま す。文字記録では何千年という期間に対して、安定 性が実証されています。しかし、電子記録は、記録 媒体の素材の信頼性はもとより、読み取り装置の寿 命でさえ数年の実績しか有りません。最新の読み取 り装置に適応した記録媒体にもれなく複写を繰り返 すことを宿命づけられています。これは、困難な作 業であることは意外と知られていません。

# 4. 研究者の図書館建設に果たす役割

(受入順)

#### 5. おわりに

私は、インターネットと電子通信出版が、研究者の組織化と学術情報の生産について、常識を変えさせる力を感じています。そして、学術情報の「収集・保存・未来への提供」を考える時、【学術情報の生産プロセスの変化】【電子通信出版と著作権】【電子記録の永久保存】の三点を従来の図書館の成立要件に加えて考えた結果、研究者や利用者にとって、3種類の別々の設立要件で運営される図書館に役割を分担させることに到達しました。

ここで、あえて断定的な表現で述べさせて頂いたことは、日常性からかけはなれた「SF図書館」かもしれません。しかし、図書館員として、将来出会う利用者のためには、日常として意識せずにはいられないテーマだと思っています。

(医学部分館•運用係)

## 本学関係教官寄贈図書

#### 「本館]

ルドルフ・プロット (医学部外国人教師)

・今こそ聖書がわかった:文学書としての聖書 ルドルフ・プロット, ゲルハルト・ローフィンク共著 女子パウロ会 1977

#### 千葉 嘉彦(名誉教授)

・からだの中の夜と昼:時間生物学による新しい昼夜観 千葉喜彦著 中央公論社 1996 (中公新書; 1315)

#### 川村 博忠(教育学部教授)

・山口県の地理 山口県企画部編 川村博忠,小杉健三監修 山口県刊行物普及協会 ぎょうせい (発売) 1994

#### 梶返 昭二(名誉教授)

Halogenation and Oxidation with Quaternary Ammonium Polyhalides, Shoji Kajigaeshi et al. Hofu:
COLONY PRESS 1996

#### 平野 芳信(人文学部助教授)

・日本文芸の系譜:山梨英和短期大学創立三十周年記念 山梨英和短期大学日本文学会編 平野芳信(ほか)執筆 笠間書院(発売) 1996

#### 桒原 昭徳(教育学部助教授)

- ・総論教師の仕事 柴田義松編 桒原昭徳(ほか)執筆 明治図書出版 1984 (シリーズ・教科教育法; 1)
- ・両親のための育児ハンドブック 前編(胎児~2歳)・後編(3歳~入学) 桒原昭徳(ほか)執筆 山口県教育委員会 1995
- ・家庭で育つ子どもの力、学校で育つ子どものカー幼児期・児童期の子どもの接し方 桒原昭徳著 庄内 小学校PTA同和教育推進委員会 1993
- ・"学級の歴史づくり"の理論と方法 桒原昭徳著 東方出版 1982 (現代学習集団研究 13)

# 人 事 異 動

[転 任](8.8.31) 岸 田 令 次 (附属図書館医学部分館長)横浜市立大学へ

[併 任](8.8.31) 中 村 和 行 附属図書館医学部分館長

[配置換](8.10.1) 佐藤 仁 (情報管理課総務係)人文学部·理学部会計係へ

[配置換](8.10.1) 須藤馨情報管理課総務係(経理部経理課給与係から)

[採 用](8.9.1) 浜 崎 まり子 情報管理課目録係

(8.11.1) 松 本 郁 子 情報管理課目録係

[辞 職](8.10.31) 笛 田 さな恵 (情報管理課目録係)

# 委員の交替

岸田令次前医学部分館長の転任にともない平成8年9月1日付けで次のとおり委員が就任しました。

- 附属図書館運営委員 佐々木功典(医学部)
- 医学部分館図書委員 佐々木功典(第二病理•教授)

# **誌** (平成8年9月~11月)

# [本 館]

- 8.9.11~13 第37回中国四国地区大学図書館研究集会(広島) 井関相互協力係長・赤野(目録係)・渡部(医分館運用係)・藤本(工分館整理係)
- 8.10.17~18 平成8年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議(島根)江見目録係長
- 8. 11. 11~14 平成8年度大学図書館職員講習会(京都) 西垣(受入係)
- 8.11.27~28 第9回国立大学図書館協議会シンポジウム(名古屋) 松本運用係長

#### [医学部分館]

9. 3~5 文献検索講習会

10. 8 医学部分館図書委員会

11. 11 スエッツ・スキャンデモンストレーション

11. 12 字部•小野田地区図書館連絡会議

11. 25 A T M 説明会

11. 27~28 日本医学図書館協会中国・四国部会総会(高知) 上田整理係長

#### [工学部分館]

9.18 図書・研究報告委員会

10. 16 電子情報対策ワーキング

10. 22 図書・研究報告委員会

11. 15 持ち回り図書・研究報告委員会

# お知らせ

#### 本館運用係

☆ 本館書庫利用時間を平成8年12月より延長しました。

月曜日~金曜日 午前9時から午後7時まで

#### 工学部分館

☆ CAonCDのサービス開始について

上記のサービスを1月より開始いたします。当面は工学部分館内でのみのサービスですが、4月より工学部の各研究室からも検索出来るようにする予定です。